

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

記入日: 2024年 1月 8日

事業所名: 夢門塾ゆうゆう湯野

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	3	3	0	・活動ごとに部屋が仕切られているが、利用人数によっては別の部屋も開放してスペースを確保している。
	② 職員の配置は適切である	4	2	0	・職員が移動をする際には声を掛け合って人が少ないところに移動するよう連携がとれている。
	③ 衛生面の管理が行き届いている	5	1	0	・毎日の掃除、来所時・外出後の手洗い、調理時のマスクの着用、使い捨て食器の使用、週に1度の玩具消毒など徹底してできている。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	0	・パート職員も含め、定期的に職員ミーティングを行い職員間での情報共有が円滑に出来ている。課題と感ずることに対して、それぞれが意見を出し合って改善することが出来ている。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	・11月に全保護者に向け、事業所についての疑問や行事についてのアンケートを行った。保護者様交流会でアンケート内容に回答するとともに、そこで出てきた意見を踏まえて行事を考えている。
	⑥ 自己評価の結果を公開している	6	0	0	・2022年12月オープンの為、今回が初の公開になる。 ・毎年、会社のホームページにて公開を行っている。
	⑦ 職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	6	0	0	・会社全体の研修を毎月、原則全職員参加で実施している。 ・定期的な職員ミーティングを行い、事業所としての業務の進め方のマニュアル作成をしたり、支援に役立つ書籍の紹介をしている。
適切な支援の提供	⑧ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	5	1	0	・個別支援計画更新前だけでなく、日ごろから利用者様の様子について職員間で密に情報共有が出来ている。 ・モニタリングを計画通りに行い、子ども・保護者様の要望を把握して計画づくりを児発管が行っている。
	⑨ 活動の計画をチームで行っている	3	3	0	・安全に楽しく活動できる内容を話し合い、実施している。 ・出勤している職員と話を決めて決めるが、全員での計画は出来ていない。
	⑩ 活動の計画が固定化しないよう工夫している	5	1	0	・「楽しい」と声が上がった行事は、アレンジをして再度行うなど固定化されないように工夫をしている。
	⑪ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	3	3	0	・長期休暇にしかできない事、平日・休日できることを話しあって決めており、活動ごとにねらいの設定できている。
	⑫ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	6	0	0	・集団活動をメインでは考えているが、集団で難しい場合には職員が個別について支援を行っている。
	⑬ 支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	・子どもが来所するまでの時間を使って情報共有を行い、担当職員を決めている。その時の状況に応じて臨機応変に対応している。
	⑭ 日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	・利用者様の様子をメモし、それをまとめて全職員が閲覧できるようにしている。休んでいた職員も閲覧できるため、全職員で支援の改善についてミーティングで話し合うことが出来ている。
	⑮ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	・児発管が期日までに必ずモニタリングを行い、個別支援計画書の作成をしている。
⑯ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1	0	・「運動・学習・生活」の三本柱を中心とし、創作活動や命を守る学習(避難訓練等)を取り入れている。	

関係機関、保護者様との連携	⑰	学校との情報共有(年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	0	・学校の先生を含めた会議には管理者または児発管が参加している。 ・子どものことで気になることやトラブルがあった際には、担任の先生に尋ねている。
	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	3	3	0	・会社の児童発達支援事業所から来所が決まった子は情報共有が出来ているが、他社の児童発達支援事業所から来所になった子は情報共有が出来るように努めている。
	⑲	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	0	6	0	・これまでに学校卒業後に障がい福祉事業所に移行した利用者様がない。
	⑳	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	0	・直接連携をとることはないが、相談支援員を通して対応している。
	㉑	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	6	0	0	・電話や連絡ノート、連絡ノートアプリ「コドモン」、送迎時を活用してその日の様子を必ずお伝えしている。
保護者様への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	6	0	0	・見学時と契約時に管理者が説明をしている。 ・どのように説明しているのかミーティング時に共有している。
	㉓	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	6	0	0	・相談があった際には保護者様の気持ちを聞き、相談に応じている。その場で返事が出来ない場合には、一度持ち帰り管理者に確認をしてから返事をしている。
	㉔	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	6	0	0	・9月に行事参観、11月に保護者様交流会、12月に保護者様が参加できる行事を行った。交流会では1年の様子をスライドにまとめたり、事前にアンケートを行い、質問に回答する時間を設けた。
	㉕	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2	0	・未だ苦情は入っていないが、入った場合には管理者が対応するように重要事項説明書等に記入がある。
	㉖	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	6	0	0	・月の半ばに行事予定表、月末に利用表と活動内容報告広報誌をお渡ししている。
	㉗	個人情報保護に十分注意している	6			・個人情報は鍵付きの書庫で保管をしている。 ・個人情報が載っている書類は必ずシュレッダーで処理をしている。
	㉘	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			・視覚支援も含め、発達段階に応じてジェスチャー等も加えながら話し方を工夫している。 ・保護者様についても電話やショートメッセージ、送迎時に直接伝えるなど使い分けている。
	㉙	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	1	3	2	・地域住民の方を招待したことはないが、地域で開催されているお祭りに参加した。
	非常時などの対応	㉚	緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	6	0	0
㉛		非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	6	0	0	・消防避難訓練を2回、水害非難訓練を1回実施した。
㉜		虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	・会社の「虐待と身体拘束の防止」研修に参加している。
㉝		いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	4	2	0	・身体拘束が必要な利用者がいない。
㉞		保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	3	3	0	・決まったの投薬はないが、依頼があった際には職員間で情報共有を行い飲み忘れが無いようにしている。 ・飲み終わった袋を持ち帰ってもらい、飲んだことを保護者様に確認してもらっている。
㉟		ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	6	0	0	・記入したものをファイルに綴じ、全職員が確認している。

保護者様評価、自己評価についてまとめ

地域住民の方を招待する行事、障がいの有無にかかわらず様々な子どもと関わる機会が少ないことを感じる。
地域性や立地を有効活用し、事業所を越えて地域の方と関わる機会を作っていけたらと思う。